

## 平成31年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校は、「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶をめざし、高い志と夢を持って、21世紀を担うことのできる有為な人材を育てる。

- 1 良識溢れる豊かな人間性を持ち、国際感覚に富んだ、社会に貢献できる、リーダーシップを取れる人材を育成する。
- 2 学校をめぐる情勢の変化に迅速に対応しうる機能的な組織運営に努め、他校をリードする先進的な学校づくりを展開する。
- 3 「入りたい」「入ってよかった」、保護者や地域社会から「入らせたい」「入らせてよかった」と期待され信頼される学校を創る。

## 2 中期的目標

## 1 学力の向上と「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶

(1) 大阪を代表する全日制普通科単位制高校として、進学を重視した規律ある学校を維持、発展させる。

- ア 新学習指導要領や高大接続改革に対応し、また進路実現に向け常に適切にカリキュラムや指導方法の研究を行なう。  
※2021年度において、学校教育自己診断(生徒)における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を84%にする。

イ 本校での学習活動のみで、国公立大学や難関私立大学への現役合格に必要な学力を育成する。

※2021年度において、国公立大学現役合格者を22%以上にする。

ウ 土曜講習、長期休業中等の講習、週末課題等の内容を精査・改善し、進路実現のための基礎固めを図る。

※2021年度において、一日平均学習時間(2年生10月)を110分以上にする。

エ 「槻の木NEXT STAGE」(企業訪問、高大連携、国際交流・海外研修、地域連携など)の取り組みや体験・発表型学習によって、思考力・判断力・表現力等を育成し、社会で生き抜くための学びに向かう力、人間性の涵養に努める。

(2) 「規範なくして学力向上なし」を合い言葉に、高い志や倫理観と強い精神力を育て、学業と部活動・学校行事の両立のための支援と指導を行なう。また、安全で安心して学校生活に取り組める環境を維持、発展させる。

ア 学習指導・生徒指導・進路指導などの学校経営において他校をリードし、他校の範となりうる工夫、実践に努める。

※2021年度において、遅刻者数府内最少レベルを維持する。

イ すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。

(3) グローバル社会で活躍できる「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶に向けて、学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木NEXT STAGE」等の取り組みにより、社会で通じる礼儀やマナーを身につけさせるとともに、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。

## 2 先進的で他をリードする学校づくり

(1) 強い組織力による学校力の向上をめざし、授業改善、生徒指導、進路指導に取り組む。

- ア 教員相互の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、授業改善に取り組む。  
イ 先進校視察・研修参加と伝達研修・教職員研修により、教育力の向上と活性化を図る。

(2) 組織的な協働体制による学校運営の確立

ア 教職員全員で組織的に校務に取り組めるよう効果的・効率的な組織体制を構築するとともに、常に社会や学校を取り巻く情勢の変化に迅速に対応できるよう改善に努める。また、教員がより多くの時間で生徒対応できるように業務のスクラップ&ビルドを進める。

## 3 保護者・地域から信頼される学校づくり

(1) 子どもが「入りたい」「入ってよかった」、保護者が「子どもを入りたい」「入れてよかった」と、地域に信頼され誇りにされる学校づくりを続けていく。

(2) 広報活動、情報発信の充実に努め、保護者・地域との信頼関係を高める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学力の向上と調和のとれた人格の陶冶】</p> <p>1. 学力及び学びに向かう力のさらなる向上と進路実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員相互の授業見学の活性化、研究授業・研究協議とまとめの共有、授業アンケート結果の共有、研修・伝達研修等を行っており、「他の教員の授業を見学する機会」(教職員)は97%(昨年100%)であった。</li> <li>・「思考力を重視した問題解決的な学習指導を実施」(教職員)65%(昨年59%)、「評価の在り方について話し合う機会」(教職員)71%(昨年66%)は、共に上昇した。今後も、新学習指導要領、指導と評価、高大接続改革に係る研修・研究と実践を進めていく。</li> <li>・「週末課題は家庭学習の定着に役立っている」(生徒)は69%(昨年66%)であり、継続指導している。</li> <li>・カリキュラムの検証と改善、進路実現に向けた科目選択に係る指導、説明会・個別面談・講習の実施等により、「自分の適性や進路に応じた科目選択ができる」(生徒)89%(昨年87%)、「教育情報について、提供の努力をしている」(保護者)91%(昨年90%)、「一日勉強会は学力向上に役立つ」(生徒)77%(昨年66%)と満足度は上昇した。</li> </ul> <p>2. 規範意識、自尊感情の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「規律を守った生活を送っている」は生徒93%(昨年94%)、保護者95%(昨年98%)、「学校生活についての先生の指導は納得できる」(生徒)78%(昨年73%)、「学校の生徒指導の方針に共感できる」(保護者)86%(昨年85%)は概ね例年通りであった。</li> <li>・「学校はいじめなど私達(子ども)が困っていることに真剣に対応してくれる」は生徒84%(昨年81%)、保護者85%(昨年84%)、「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」(生徒)88%(昨年85%)で昨年より微増している。</li> <li>・「今年の体育大会はよかった」は生徒82%(昨年71%)、保護者89%(昨年84%)、「今年の文化祭はよかった」は生徒83%(昨年71%)、保護者87%(昨年80%)と行事に関する満足度は上昇しており、今後も主体性や人間関係調整力を育てる取組を推進していく。</li> <li>・今後も安全安心な学校づくりと共に、生徒の規範意識、主体性、自尊感情を育てていく。</li> </ul> <p>【学校力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営ビジョンの明確化、進捗状況の共有、教職員の協働体制の推進、研修の充実等により「PDCAサイクルによる学校経営の推進」93%(昨年88%)、「学校運営に教職員の意見が反映されている」86%(昨年47%)、「日々の教育活動の課題を相談できる職場」79%(昨年74%)、「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」(教職員)91%(昨年79%)、「経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」(教職員)72%(昨年67%)、「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」77%(昨年64%)等、教職員の意識が向上した。</li> <li>・「充実した学校生活を過ごしている」は生徒88%(昨年85%)、保護者88%(昨年89%)、「入学して良かった」は生徒79%(昨年74%)、保護者90%(昨年90%)で生徒は上昇、保護者は昨年同様であった。</li> <li>・「先生は責任をもって授業やその他の仕事に当たっている」生徒91%(昨年89%)、「学校は保護者の願いに応える努力をしている」(保護者)84%(昨年83%)であった。</li> <li>・今後も教職員の協働体制を推進し、教育活動の活性化と学校力の向上を図っていく。</li> </ul>	<p>【第1回6月15日】「平成31年度学校経営計画について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶ができ、規範意識が高いという良い面は、このまま伸ばして行ってほしい。</li> <li>・NEXT STAGEの取り組みは、学校外の大人との出会いを大切にしながら、卒業後にたくましく生きるための経験となるよう、より工夫を重ねて行ってほしい。</li> <li>・NEXT STAGEでは、生徒の安全安心を確保でき、できるだけプログラム化されていることに気付かれないようなプログラムを考えて行ってほしい。</li> <li>・「どんな人になりたいか」という問いに、「人の役に立ちたい」と答える生徒が多いということが印象に残った。「人とつながる」「人の役に立つ」生徒を育てて行ってほしい。</li> <li>・「人とつながりながら創造していく力」をつけるための仕掛けづくりが重要となる。ICTをうまく活用しながら授業をしていく必要がある。</li> </ul> <p>【第2回11月1日】「授業見学」及び「学校経営計画進捗状況について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に学びに向かう力をつけなければならない。「学び方の技術」「自分で考える力」の育成が必要。</li> <li>・ICTはあくまでツールである。何かしらの問いについて興味を持ち、考え、解決した時に主体性が生まれる。主体的な授業を構成するのは難しいが、研究を重ねて行ってほしい。</li> <li>・プロジェクターを活用した授業はわかりやすく良かった。また、聞いていて面白い授業とそうでない授業があると思う。経験年数の少ない教員は、ベテランの教員のスキルを盗んでほしい。</li> <li>・授業評価でネガティブな回答をした生徒の回答理由・背景を読み取り、授業改善に取り組んでほしい。</li> </ul> <p>【第3回2月7日】「平成31年度学校経営計画及び学校評価(案)、令和2年度学校経営計画及び学校評価(案)について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導と主体的な学びをどのように繋げるかが基本。自分の進路の見通しと自分の今の学びがうまく繋がると遅刻者数にも変化が現れるのではないかと感じる。</li> <li>・教育の意図を明確にし、生徒達に目的意識を持たせることが重要だと思う。勉強が面白いと感じることが、学びに向かう力となり、それが主体的な学び、深い学びへと繋がっていく。何を目標にすれば何を達成できるのかということ整理、明示化することが必要。</li> <li>・学校経営計画に「強い組織力による学校力の向上をめざし」とあるが、学校教育自己診断結果や授業アンケートの結果によく表れていると思う。学校教育自己診断の「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。」の数値が高いことが、生徒・保護者の満足度に繋がっているのではないかと感じる。</li> <li>・槻の木高校の変わってはいけない部分、変わるべき部分があると思うが、更によい学校になるよう今後も尽力していただきたい。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上と規範意識、自尊感情の醸成	<p>(1) 学力及び学びに向かう力のさらなる向上と進路実現</p> <p>(2) 高い志の育成と規範意識、自尊感情、人権意識の高揚</p> <p>(3) グローバル人材の育成</p>	<p>(1) ア・カリキュラムの検証を進めるとともに、「体験・発表型授業」を実施する等、主体的・対話的で深い学びの実現を進める。 ・高大接続改革を踏まえて、「教科 Can-Do リスト」「教科シラバス」を精査し、指導と評価に係る研究を進め、生徒の学力及び学びに向かう力を育てる。 ・新学習指導要領を研究し、本校のカリキュラム改編を進める。 ・生徒の学力を、学力生活実態調査、英語学力調査等で分析し、生徒面談の充実を図る等して、進路実現を支援する。 ・職業観、勤労観育成のための取組みを行うとともに、校内での大学個別説明会を行う等して進路指導の充実を図る。 イ・自学する意義の理解、課題、予習、復習等による学習時間の維持とその定着を図る。 ・学校図書館の更なる活用等を通じて読書習慣や自習習慣の定着を図る。 ウ・「槻の木 NEXT STAGE」の取組みを継続し、企業、大学、地域と連携した体験・発表型進路学習を行う。</p> <p>(2) ア・遅刻数の府内最少レベルをめざす。 ・生徒の安全確保のため、自転車指導等の交通安全週間を設け、指導の充実を図る。 ・学校美化や教室清掃を習慣とし、学びの場としての学習環境整備に努める。 イ・保健課を中心に、相談室委員会、学年、教科担当者等が情報を共有し、スクールカウンセラーや関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行う。 ・安全で安心な学校づくりのための教職員研修を実施する。</p> <p>(3) ・「槻の木 NEXT STAGE」の一環として国際交流に取組む等、国際的な視野を育て、使える英語力の向上を図る。 ・学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木 NEXT STAGE」等の取組みにより、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断で「カリキュラムに係る満足度」85%以上を維持。(H30:89%) ・学校教育自己診断で「授業満足度」80%以上を維持。(H30:80%) ・学校教育自己診断(生徒)における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を78%にする。(H30:75%) ・学習指導室(進路、教務)、学年、教科が協力して、進路実現を支援する。 ・国公立大学現役合格16%以上 ・面談回数年間総数2160回以上を維持。(H30:約2400回) ・学校教育自己診断で「進路について考える機会がある」90%以上を維持。(H30:93%) イ・一日平均学習時間31年度2年(10月)、平日・休日平均100分。(H30:95分) ウ・参加生徒の満足度90%以上を維持。(H30:90%)</p> <p>(2) ア・年間遅刻者数650人以下(H30:685人) ・学校教育自己診断で「規律を守った生活を送っている」95%以上。(H30:94%) イ・保健課を中心とした教育相談体制の確立。 ・教職員研修の開催。</p> <p>(3) ・「槻の木 NEXT STAGE」で韓国、タイへの海外研修旅行を実施。 ・参加生徒の満足度90%以上。 ・学校教育自己診断で「学校行事に係る肯定的回答」78%以上。(H30:77%)</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断で「カリキュラムに係る満足度」(生徒)は89%。(○) ・学校教育自己診断で「授業満足度」は79%であった。(△) ・学校教育自己診断で「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」は1年生では93%(H30:87%)と上昇したが全体では75%であった。(△) ・生徒の進路実現のためのカリキュラムの検証と指導を推進した。今後も、新学習指導要領の研究、本校生徒の現状に合った科目編成を進めていく。 ・新学習指導要領に対応し、主体的・対話的で深い学びとなる学習指導を検討するため、新カリプロジェクトチームを立ち上げ、新カリキュラムの編成に取り組んだ。伝達研修「新学習指導要領(総則)」を実施すると共に、「育てたい生徒像」「カリキュラムポリシーの根幹」についてグループ討議・発表を行い共通認識を図った。(◎) ・学習指導室と学年が協力し、学力生活実態調査、GTEC等を実施、分析すると共に、授業等の現状を含めて関係教員で協議、個別指導し、進路実現を支援。(◎) ・保護者向け進路説明会を実施。(1年・2年220家庭、3年135家庭が参加) ・啫啫サポートも実施し、国公立大学現役合格者は6.7%であった。(△) ・学習状況の把握や科目選択など進路実現に向けた生徒面談を約2400回(1,2年各720回、3年960回)実施。(◎) ・学校教育自己診断で「進路について考える機会がある」(生徒)は92%であった。(○) イ・学習習慣定着のため、週末課題(1・2年生英数国)、週テスト(2年生英語)、毎日の学習計画書の提出等の取組みを実施し、家庭学習時間は平日・休日平均2年生107分、1年生118分であった。(◎) ・年10回実施した一日勉強会には計約1,100名が参加。 ウ・「NEXT STAGE」京都宇治散策では京都文教大学の教授、学生と共にお茶工場見学等、日本の伝統文化を学んだ。神戸大学大学院での体験型学習は、オープンキャンパスにない内容で、実験設備の見学や講義の聴講等を体験した。満足度は100%(◎)</p> <p>(2) ア・入室許可証を用いた遅刻指導を実施したが、遅刻者数は1057人であった。(△) ・年間2回の通学用自転車整備チェック、交通安全指導を実施。 ・学校教育自己診断で「規律を守った生活を送っている」は、生徒93%(△)、保護者95%(○)であった。今後も指導を継続していく。 ・PTA、地域、生徒、教職員が合同で校内での花苗植えを年間2回実施。内1回は、防災食を食べる取り組みも行った。また、城跡公園の花壇整備にも参加した。 イ・保健課を中心として、教育相談の充実に取り組んだ。担任会等から生徒情報を共有し必要に応じてスクールカウンセラーとの連携を図ると共に相談室の活用を推進。(◎) ・スクールカウンセラーによる職員研修「三者懇談での保護者対応について(経験年数の少ない教員向け)」「ネット依存の現状について」を実施。(○) ・担任、教科担当者等が情報を共有し、スクールカウンセラーや関係機関とも連携した個別の支援を行うために、配慮を要する生徒の支援会議を7月と1月に実施。</p> <p>(3) ・韓国研修は、事前研修「JICA研修」「立命館大学留学生との交流」を実施した。国際情勢により姉妹校訪問の実施はできなかったが、ビデオレター等で交流を実施し生徒満足度は100%であった。(◎) ・タイ研修では、姉妹校訪問での行事参加・文化体験や生徒との生活体験、報告プレゼン等により、主体性の向上、英語力や国際理解の向上に繋がった。生徒の満足度は93%(◎) ・オーストラリア姉妹校とのペンパルの取組みでは、相手国との差異(勉強内容、日々の生活)に気付く等学びが深まった。 ・今年度、新たな取組みとして、3月に「国内留学プログラム」を5日間実施予定。 ・学校行事等に生徒が自主的・協力的に活動できるよう担任を中心に指導し、修学旅行(2年)では90%が「満足」と回答。体育大会、文化祭での生徒満足度は、それぞれ98.6%、95.9%と極めて高かった。(◎) ・今後も、生徒会役員を中心とした主体的活動の充実を図ると共に、学校全体で学校行事を行い、さらなる行事の活性化をめざす。 ・学校教育自己診断で「学校行事に係る肯定的回答」は85%であった。(◎)</p>
2 先進的で他をリードする学校づくり	<p>(1) 強い組織力による学校力の向上</p> <p>(2) 組織的な協働体制による学校運営の確立</p>	<p>(1) ア・教科会を定期的に開催して教科研修を行い、授業力の向上を図る。 ・教員相互授業見学、教員研修を行う。 ・授業アンケート結果を効果的に活用し、授業改善に取り組む。 イ・積極的な府教育センター等の研修への参加と伝達研修、教職員研修により、教育力の向上と活性化を図る。 ・日常的なOJTの推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。 ・カウンセリングマインドのある生徒指導を推進する。</p> <p>(2) ・効果的・効率的な協働体制の確立のため、OJTの推進、業務分担の見直しを図る。 ・全校一斉退庁日及びノークラブデー等による働き方改革を推進する。</p>	<p>(1) ア・教員相互の授業見学、授業アンケート結果を踏まえた教科会での協議を全教科で年間2回実施。 イ・伝達研修、教職員研修の実施。 ・学校教育自己診断(教職員)で、「研修内容に係る肯定的回答」78%以上。(H30:76%) ・学校教育自己診断「生徒指導に係る肯定的回答」80%以上を維持。(H30:82%)</p> <p>(2) ・学校教育自己診断(教職員)で、「教職員間の相互理解についての肯定的回答」70%以上。(H30:67%)</p>	<p>(1) ア・全教科前後期2回の研究授業・研究協議を実施、まとめを共有と共に、授業アンケート結果を共有する等授業力の向上に努めた。前期86.4%、後期88.4%の生徒が授業に対し肯定的な評価をした。(◎) ・学校教育自己診断(教職員)で、「研修内容に係る肯定的回答」は72%。(△) イ・学校経営推進費における支援校として「探究する授業」プロジェクトチームを立ち上げ研究に取り組んだ。 ・ICT教育、総合的な学習、探究活動等、教育実践に特色ある高校5校を訪問し伝達研修を実施した。(◎) ・人権意識の向上、中退防止の取組みについての伝達研修を実施。(◎) ・教育センターの研修では、悉皆以外で、インターミディエイト研修1名、アドバンスト研修1名等が参加した。 ・学校教育自己診断「生徒指導に係る肯定的回答」(生徒)は85%。(◎)</p> <p>(2) ・今年度より副担任を導入し、ホームルーム活動の円滑な実施、担任の負担軽減に繋がった。 ・学校教育自己診断(教職員)で、「教職員間の相互理解についての肯定的回答」は79%であった。(◎) ・今後も効果的・効率的な協働体制の確立のため、OJTの推進、業務の見える化、業務分担の見直しを図る。</p>
3 保護者・地域から信頼される学校づくり	<p>(1) 子どもが「入りたい」「入ってよかった」、保護者が「子どもを入れたい」「入ってよかった」学校づくりの推進</p> <p>(2) 保護者・地域との信頼関係の向上</p>	<p>(1) ・授業公開、体育大会、文化祭、個人面談、進路説明会、PTA活動等を通じ、保護者の信頼をさらに得よう努める。 ・施設設備の改善に努め、学習環境の充実を図る。</p> <p>(2) ・学校教育活動の全般について、本校生徒・保護者、中学校、中学生・保護者、地域に発信し、信頼にたる学校づくりを推進する。 ・ホームページの充実、メールマガジンの発信などにより、学校教育活動への理解と信頼を促す。</p>	<p>(1) ・「入って(入れて)よかった」生徒76%以上。(H30:75%)、保護者91%以上。(H30:90%)</p> <p>(2) ・ホームページの適宜更新。 ・メールマガジンのタイムリーな発信。</p>	<p>(1) ・学校教育自己診断「入って(入れて)よかった」は、生徒79%(◎)、保護者90%(△)であった。 ・保護者の学校行事参加状況は、体育大会611名(85.7%)、文化祭659名(92.7%)で昨年を上回った。 ・PTA、生徒、教職員、同窓会が合同でトイレミーティングを行い、改修したトイレ清掃について情報交換した。</p> <p>(2) ・校内での学校説明会は8回実施。参加中学生は1回平均約130人。 ・ホームページ更新は27回、学校ブログ更新7回(◎) ・メールマガジンは、毎週金曜日に、これまで45回発信。(◎) ・緊急時の連絡、安否確認等のツールとして保護者、生徒に加えて教職員もメールマガジンを活用することとした。 ・地歴部の部員が高槻市役所や地域の人達と協力し、高槻城本丸の石垣の石を校内に展示。学校の敷地外からでも見学できるよう配置し、一般公開している。(◎) ・サッカー部が「体育の日高槻市民イベント」の補助員をしたり、弦楽部がJR高槻駅前イルミネーション点灯式の演奏をする等、地域の行事に協力、参加した。(○)</p>